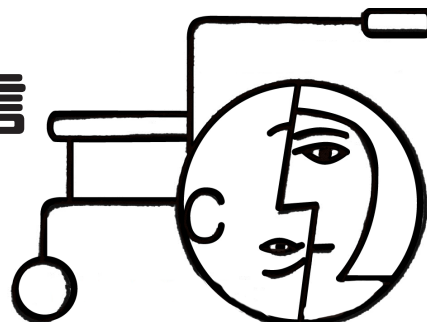


2021年4月1日 NO.123号

# 障害児・者サークル通信

発行：性教協★障害児・者サークル事務局  
〒591-8046 大阪府堺市北区東三国ヶ丘町5-2-10 千住方  
E-mail seikyokyo\_kansai@yahoo.co.jp  
HP <http://shogaiji.seikyokyo.org/>



## ●《特集》

- 第26回 障害児・者性教育セミナー報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 第1分科会：中学校での障害のある子の性教育実践から学ぶ、性教育の魅力・・・・・・・・・・3
- 第2分科会：放課後等デイサービスでの性教育実践・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
- 第3分科会：当事者たちと語り合う「性と生」・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
- 第4分科会：障がいのある人たちを支援するという事・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
- 「福井発オンラインによる支援者のための障害児・者性教育セミナー」を終えて・・・・・・・・7
- さわさけいこ「当たり前？」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
- 新刊本の紹介・お知らせ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

## 《特集》 第26回 障害児・者性教育セミナー報告

第26回障害児・者性教育セミナーは、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、初のオンラインセミナーとして開催された。今回は、“性教育実践はじめの一步”をテーマとし、性教育を既実践している方、これから取り組みたいと思っている方、性教育に関心のある方が全国各地より100名参加し、共に学び、語り合い、知ることからはじめようというコンセプトのもとスタートした。

### ＜リレートーク＞

午前は、オンラインの強みを生かし、東京・沖縄・名古屋をつなぎ「コロナ禍でも、あきらめないで進める一歩」と題したリレートークから始まった。はじめのレポーターは、東京の放課後等デイサービス(以下、放デイ)の田中さん。“コロナだからできない、やめようではなく、どうしたらできるのか”を考えながら常に活動してきた。子どもたちを、いつもと変わらない生活・環境で受け入れたいと考え、職員と共に協力し乗り越えてきたと報告があった。昨年2月末に突然一斉休校が決まったが、その説明がどこからもなく事情が把握しきれない中、「私、明日から仕事に行けますか？」という保護者の不安な声に必死に対応したこと、放デイの多くは、施設空間に余裕がなく三密を避けることが困難であること、職員のシフト調整に苦労したこと、もともと運営上安定しない制度の問題が浮き彫りになったことなど話された。緊急事態宣言を受けて放デイの利用を自粛する親子も増え、食生活や排泄習慣が不安定になった子どもや、体力や機能が低下した肢体不自由の子

どもの事例も紹介された。同時に職員は、感染拡大の波の中での連続出勤により、疲弊していく姿があったが、みんなで支え合い乗り越えてきたと報告があった。コロナ禍という困難な状況を体験したことで、今までは自分の意見を言えなかった子どもが「お休みしたくない」と自分の思いを言えるようになるなど、子どもの成長も感じる事ができたと笑顔で話され、困難な中でもあきらめないで進むことの意味を私達に伝えてくれた。

次は、沖縄の安里さんにバトンが渡された。美しい沖縄の海の写真を提示し、毎週土曜は名護市辺野古の海でカヌーに乗って「新基地建設反対」の活動をしているという自己紹介からスタートした。医療型障害児入所施設と隣接する肢体不自由特別支援学校で勤務している。児童は、施設から通うセンター生と自宅からの通学生が半数の割合で在籍し、約70%が医療的ケアを必要とする。最初にコロナ禍の突然の臨時休校決定により、教育現場の混乱と重度障害児をもつ保護者の困難さが語られた。コロナ対策では、感染が命に関わる児童も多く、分散登校やセンター生と通学生の交差がないように、教室やエレベーター、担当する教員も分けるなど工夫したとの報告があった。コロナ対策においては「三密」が不可欠とされているが、重度障害児教育では「三密」を避けての教育は成り立たない!! さわってなんぼの教育だと思っていると述べ、学校管理者である校長の理解は大きかったと話された。コロナは人間関係